

54. 色彩嗜好傾向の一考察（女子高校生）

（第3報）

安城学園 戸塚 尊子

安間 荐子

1. 色彩嗜好傾向を知る事は、被服学習等を合理的により適切に指導するための一助と信じ、前調査に引き続き考察を進めてみた。

2. 第2報の結果より今回は次の点に重点をおき実施した諸調査の結果を報告する。

A. 暖色・寒色系統においては一般的・普遍的傾向を示したのに比べ、中性色及び近似色系統は嗜好傾向に多少の差異を認めたのでこの点を究明してみた。

B. 嗜好色・着用色の傾向変移は季節的・感覚的更に経済的にもその影響を認められるが、特にこれを性格面にみた場合それぞれの性格との相関度の追究及び嗜好傾向を左右すると思われる内面的なものについても考え、生徒の生活経験、学習活動等にみられた事例等も吟味してみた。

(1) 服装に関する興味・関心・批判力の旺盛な女子高校生を対象として、色彩嗜好傾向、生活環境・経験等を質問紙により調査した。学園3年生 200名。

(2) 前調査の小保内氏によるC・S・T（色彩象徴性格検査）に引き続き、内田・クレッペリン精神検査、クレッチェメル性格診断等も実施した。

(3) 服装について、興味関心度・流行の影響を知るためにこれに関連する調査を質問紙により実施した。